

無料 & 送料も不要!

毎月15日発行
ブライダルマガジン
レイ ウエディング



Lei weddingは、ホテル・式場やドレス、ジュエリー、新生活準備まで、結婚準備に役立つ情報が満載のフリーマガジン。登録すれば、最長1年間12回、自宅に無料送付します。

申し込みはカンタン!

ウェブサイトでお申し込みください

<http://www.lei.tv>
阪神版申込フォームへGO!

問い合わせ ☎0120(08)4116
サンケイリビング新聞社 Lei wedding事務局

vol.8

【神前式】

「Lei wedding」は、結婚、という言葉が気になり始めたアナタに贈るブライダルマガジン。「Bridal Concierge ~ブライダル コンシェルジュ~」では、Lei wedding編集部が、ブライダルに関する読者の「？」に答えます。今月は、いま注目、「神前(結婚)式」について。

Q1 神前式の由来は?

A. 始まりは大正天皇の結婚式 日本古来の神に厳かに誓う

神前式は、日本固有の神道の神に、結婚の報告・誓いをする儀式です。神社や式場によって奉られていた神はいろいろですが、多いのは夫婦円満の神とされる天照大神(あまてらすおおみかみ)。本来は神社で行うものですが、多くのホテルやほとんどの結婚式場に設備があります。

和装の婚礼衣装を身にまとった新郎新婦が、神職に先導されて神殿へと向かう様子は、とても厳かで和の魅力にあふれたもの。でもその歴史はそう古くはなく、明治33年(1900年)、当時皇太子だった大正天皇が、初めて皇居の賢所(神前)で結婚の儀式を執り行われたのを記念して、東京大神宮が神前結婚式を始めたのが民間に広まったといわれています。それまでは、家庭で挙式するのが一般的だったため、神社で神聖な儀式を行うのは画期的なこととして受け入れられたよう。

神前式は親族杯を交わすため、原則的に親族だけが参列します。しかし最近では席に余裕があれば、友人の参列が可能な式場もあります。

Q2 挙式はどんなふうに行われるの?

A. 昔はなかった指輪の交換も 今では一般的に

式場によって多少順序が異なりますが、一般的な式次第は次のようなもの。

①入場(参殿)…巫女の先導で、新郎新婦、媒酌人夫妻、親族の順に入場。②修祓(しゅうふつ)の儀…斎主が入場し、全員起立して清めのお祈りを受ける。③祝詞奏上(のりとそうじょう)…斎主が結婚の報告と神々の加護を願う祝詞を読み上げる。④三献(さんけん)の儀…三三九度とも呼ぶ、結婚を誓う杯事。三方に載せられた三三重ねの杯に巫女が注いだお神酒を、新郎新婦が交互に飲む。1杯を3口で飲むが(1・2口目は口をつけるだけ、3口目で飲み干す)、飲めない人は口をつけるだけでもよい。⑤指輪の交換…最近では神前式でも行うのが一般的。⑥誓詞(せいし)奏上…新郎新婦が神前に進み、結婚を誓う誓詞を読み上げる。⑦玉串奉奠(たまぐしほうてん)…新郎新婦が神前に玉串を奉げる。二礼二拍手一礼で拝礼し、内回りで席に戻る。⑧親族杯の儀…巫女がお神酒を参列者全員に注ぎ、巫女の合図で3口に分けて飲み干す。⑨退場

読者の「？」に答えます!

